



「広島に再びにぎわいを」

カープと市民球場はみんなの宝物

老朽化が著しく、建て替え・改修時期が目前に迫っている広島市民球場。昨年11月、広島市長が呼び掛け人となつて「新球場建設促進会議」が発足。12月に、具体的な検討を行う新球場建設検討委員会を立ち上げ、経済界、スポーツ界の代表者を交えて建設場所や球場の形態、事業手法などについて本格的な論議を繰り広げています。

期が目前に迫つてゐる広島市民球場。昨年11月、広島市長が呼び掛け人となつて「新球場建設促進会議」が発足。12月に、具体的な検討を行う新球場建設検討委員会を立ち上げ、経済界、スポーツ界の代表者を交えて建設場所や球場の形態、事業手法などについて本格的な論議を繰り広げています。

市民レベルでは、行政より「足早い昨年8月、市民グループ「カープと市民球場はみんなの宝物」が誕生しました。

同会は、広島県民はもちろん、東京

都や京都府、福岡県など全国各地からも、「カープ（広島）が好きだから」という思いを胸に、まちづくり市民父

親はなく、広島に昔のようなぎわいを

取り戻すために、自分たちができるところから行動に移したい」と真剣なま

なさです。

同会は昨年、市民球場の観客増に向けてアンケート調査を実施し、約1700人分の声を集め、集計結果を11月に開催したフォーラムの場で発表しました。集計結果を見ると、座席の改善、試合終了後の市内電車の増発入場料の家族割引制度、選手とファンとの交流の場を望む声が上位を占めています。新球場については、「現在地での建て替え」が最も多く、続いて「市民球場の改修」「貨物ヤード跡地に新

設」の順でした。



昨年11月にフォーラムを開きました



毎週日曜日の会合には、全国からメンバーが集まります

会は昨年、市民球場の観客増に向けてアンケート調査を実施し、約1700人分の声を集め、集計結果を11月に開催したフォーラムの場で発表しました。集計結果を見ると、座席の改善、試合終了後の市内電車の増発入場料の家族割引制度、選手とファンとの交流の場を望む声が上位を占めています。新球場については、「現在地での建て替え」が最も多く、続いて「市民球場の改修」「貨物ヤード跡地に新



現在の広島市民球場

Jリーガーも感謝 広島市スポーツボランティア

広島市には、スポーツイベントの運営を補助するボランティア登録制度があります。市民のボランティア意識の高まりを背景に、(財)広島市スポーツ協会が、平成11年(1999年度)度、試行的に「広島ビッグアーチボランティア」を募りました。その後、制度を整え、各区スポーツセンターが開催するイベントにも活動範囲を広げています。今年の登録者は

234人。年齢層は16歳から76歳までと幅広く、元気で意欲的な人ばかりです。中でも、熱心に活動している池田圭子さん(安佐南区在住、主婦)と砂田忠士さん(東区在住、会社員)のお二人に、スポーツボランティアの魅力について伺いました。



ゲートでグッズを配るボランティア

池田さんは、高校時代にバスケットボールで国体に出場したこともある、「やつたことのないスポーツを数える方が早いかも」というほどのスポーツマン。5年前から月1~2回Jリーグの試合会場で改札業務をしています。来場者に「いらっしゃいませ」と声を掛け、会場での明るい雰囲気づくりに努めています。「子どもから『ここにちは』と返つくるところがうれしいですね」とにっこり。

一方の砂田さんは、新聞で募集記事を見つけ、「試合を見ることができるかな」と、当時は軽い気持ちで応募したそうです。改札業務、座席案内、終了後のごみ回収など、さまざまな業務を経験した後、現在は、バックゲートでボランティアスタッフのまとめ役として

サントレーニング広島の職員からは「来場者へのグッズ配布なども十分にできるようになり、サービス性が高まりました。選手もみんな感謝しています」という声がありました。

今年から、応募資格をこれまでの18歳以上から、15歳以上にまで広げ、より多くの参加を呼びかけています。問合せ・申込は、(財)広島市スポーツ協会 ☎ 082-2443-0579、ホームページ = <http://www.sports.or.jp/hiroshima/>

他都市では 日産スタジアム (旧横浜国際総合競技場) ボランティア

神奈川県横浜市にある日産スタジアムでは、来場者一人ひとりが気持ちよく時を過ごせるように、ボランティアが自

主的な活動をしています。Jリーグの試合や各種イベントに携わる約400人の「運営ボランティア」と、スタジアムの見学者を案内する「見学ボランティア」約60人が登録しています。同施設は平成14年(2002年)のサッカー・ワールドカップの試合会場にもなった、座席数約7200席を誇る大きな競技場です。

運営ボランティアは、「運営」「研修」「交流」「情報」「環境・美化」「イベント企画」の中から、希望する部会に属して活動しています。特徴的なのは、ボランティアの登録手続きや主催者との連絡調整業務などを担う事務局にも、職員以外にボランティアが参加している点です。

同施設を管理運営する(財)横浜市スポーツ振興事業団が、事務局ボランティア制度を取り入れたのは2年前。ボランティアの自主的な活動を促す目的のはじめに、40人もいるボランティアの要望には、ボランティアが参加している点です。

職員だけでは対応できない事情があつたからだそうです。現在、30代~60代の事務局ボランティア4人とサポート役の補助事務局員約20人が専用のボランティアルームで活動しています。他都市のスタジアムへの視察や、ボランティア同士の交流会を企画するなど、自主性はますます高まっています。

現場ボランティアのまとめ役、砂田さん



会場の雰囲気を明るくする池田さん

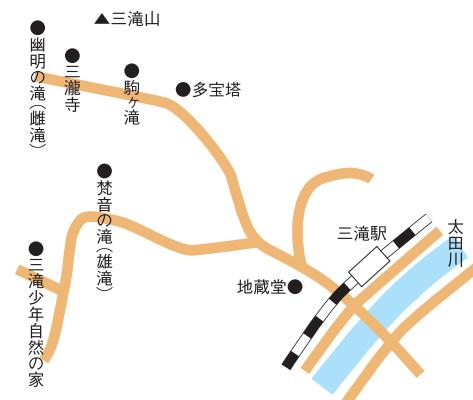
池田さんは、高校時代にバスケットボールで国体に出場したこともある、「やつたことのないスポーツを数える方が早いかも」というほどのスポーツマン。5年前から月1~2回Jリーグの試合会場で改札業務をしています。来場者に「いらっしゃいませ」と声を掛け、会場での明るい雰囲気づくりに努めています。「子どもから『ここにちは』と返つくるところがうれしいですね」とにっこり。

一方の砂田さんは、新聞で募集記事を見つけ、「試合を見ることができるかな」と、当時は軽い気持ちで応募したそうです。改札業務、座席案内、終了後のごみ回収など、さまざまな業務を経験した後、現在は、バックゲートでボランティアスタッフのまとめ役として

サントレーニング広島の職員からは「来場者へのグッズ配布なども十分にできるようになり、サービス性が高まりました。選手もみんな感謝しています」という声がありました。



梵音の滝 (雄滝)



梵音の滝 (雄滝)

ひろしま くると八区

広島には魅力あふれる地域や元気いっぱいの人たちが数多く存在します。
このコーナーでは、そんな“広島のステキ”を皆さんにお届けしていきます!



絵下山山頂からの展望は素晴らしい、山麓は
絵下山森林公園として整備されている

安芸区

長い歴史に支えられた
滝

市街地にありながら、深山幽谷の趣を味わえる三滝。“三滝”的由来である駒ヶ滝・梵音の滝・光明の滝を始めとして、国の重要文化財である木造阿弥陀如来坐像や日涉園、三滝山(宗箇山)の頂上にそびえ立つ宗箇松など、見どころ盛りだくさんの地区です。

長い歴史に支えられた
滝

三滝エリアには、大きく分けて2つの散策ルートがあります。三滝山の自然を観察するコースと、山麓の歴史的名所を散策するコースです。これらのルートを巡るガイドマップ「みたき」が平成13年(2001年)に作成されました。

作成にあたったのは、西区役所の公募に応えた三滝の郷土文化に関心を持つボランティアの皆さんです。歴史研究家や登山爱好者に指導を受けながら散策をし、区内の名所を記録しました。それをもとに、ガイドマップ「みたき」を作成しました。以降、春や秋などの季節ごとに、三滝の自然と歴史を巡るハイキン

西区



県の重要文化財の多宝塔には、
国的重要文化財である
「木造阿弥陀如来坐像」が安置されている

歴史の深い町・三滝

三滝に生まれ三滝に育ったといいう土井史郎さんも、「みたき」作成に尽力した人です。三滝本町町内会の連絡協議会事務局長として、三滝寺を中心とした三滝の発展に力を注いでいます。

時代の移り変わりに沿って、大きくなり変化してきた三滝の街並み。その原因は住民の増加にあると、土井さんは考

えます。「人口増加に伴って住宅も車の交通量も増え、多くの史跡が移築されたり取り壊されたりしました。

三滝寺は国や県の重要な文化財を有する、古い歴史を持つ場所。時代が変われば町も変わるのは仕方ないで

います。

「みたき」を企画・実施しています。また、「みたき」をリニューアルしたより詳細なガイドブックも作成する予定です。

三滝寺を含む三滝山に、地元の小学生が作成した樹木の看板を取りつけたが、それもたび重なる移築によってバラバラになってしまった。いまは、誰が見ても数番が分からなくなっています。

でも順番が分かるよう、工夫していきたいそ

うです。

みも行われています。

られた番号通りに並んでいま

したが、それも

いたび重なる移

築によってバラバ

ラになってしま

いました。いま

は、誰が見て

るよう、工夫し

ていただきたいそ

うです。

うです。

ます。



ガイドマップ
「みたき」

TOPICS

ガイドブック「みたき」は、西区役所の区政振興課で入手できます。多宝塔内の「木造阿弥陀如来坐像」は、毎年11月中旬に開催される「もみじまつり」にて開帳されます。
☎082-532-0927(西区区政振興課)



三滝寺以外ではあまり見られない、左腕を枕にした状態の「羅漢」



地域の人々によってかけられた
三滝山(宗箇山)の案内板



TOPICS

発喜会では、毎年恒例の「春の史跡めぐり」を4月3日前後に開催します。茶臼山での花見のほか、矢野地区内の史跡を見て回ることができます。
☎082-888-0044(矢野公民館)



矢野城跡付近の整備にあたる「発喜会」の皆さん



野間氏の祈願所の一つであった真光寺は、
絵下山觀音堂として保存されている

合って暮らし、独特な温かい氣質を育ててきました。また半農半商で生計を立ててきた町でもあるため、商売人ならではの合理性も持ち合わせていることが特徴。力強く温かい「矢野人」の氣質や郷土文化を、できるだけ後世に伝えていきたいですね」とのこと。絵下山を中心とした矢野地区の魅力は、語り継がれていくことでしょう。

広島市青少年センター（中区）

「あなたのあつたらいなを応援します」をキヤツチフレーズに昭和41年（1966年）、宿泊を伴わない都市型青年の家として開館しました。開館当時の趣を残す多目的ホールや大小の会議室・実習室は、おおむね30歳までの青少年の自主活動、あるいは青少年を対象にした事業のために利用されています。

イベント スタッフ活躍



ボランティアスタッフで運営するヤングフェスタ

同センターとその周辺を会場にして開催される「大イベント『ヤングフェス』」。前身の「成人の日の集い」から数えて今年で38回目を迎えました。施設で活動する若者たちの祭りであると同時に、市内の青少年の祭りでもあります。例年、フリーマーケットやステージ発表などで盛り上がりを見せています。これまで、センターを利用実行委員会をつくっていましたが、今年8～9月にまちづくり市民交流ブ

ラザと共に、「ボランティア・ランニング入門講座」の受講者もおり、さつそく実践の場となつたようです。

平和を考える 「ツナギ」



平和について本音で語り合う場です

広島市青少年センター
広島市中区基町5-61
TEL082-228-0447
FAX082-228-7074
Email : y-center@hitomachi.city.hiroshima.jp
HP: <http://www.hitomachi.city.hiroshima.jp/y-center/>

情報紙「カラー」

編集スタッフの思いが詰まった情報紙「カラー」
取材をして記事を書くことに興味がある社会人や学生が集まり、A4判8ページの情報紙を隔月で発行しています。現在のスタッフは5人。月2回程度、仕事や

授業を終えてから集まり、特集を取り上げるテーマや取材の進め方について話し合っています。メンバーの1人は「作業は結構ハンド。でも自分が作った情報紙を見ると、嬉しくなります」と話します。

昨年7月に発行した創刊号では、「自分色な人達4人」と銘打ち、カメラマンや通訳ボランティアガイド、ソムリエール、ダンスインストラクター



にインタビュー。おのおのの職業観に迫っています。第4号の目玉は、ファッショントレーニングと女子大の学生の服装傾向を、観察結果から比較したり、おしゃれの仕方について知ろうと服飾デザイナーのもとを訪ねたりと、興味深い記事が目を引きます。

ボランティア支える ボランティア

想いを継承するなどの思いが込められています。月2回、7～8人が集まり、自由に話し合っています。人間関係の本質的な部分に触れたり、平和をより身近にとらえたりすることのできる楽しさもあるようです。また、被爆者や反核市民グループの代表者をゲストに招いて話し合つたこともあります。

青少年センターに登録しているグループは45団体。舞踊・ダンス、演劇・ミュージカル分野が多く、構成人数は計752人。さらにグループ活動だけでなく、センター内の行事にボランティアとして積極的にかかわることもできます。クリスマスの時期に、サンタクロースの格好をしてプレゼントを届ける「サンタプロジェクト」や、青少年センターの企画・運営など、ボランティア「ロビー」のロビーをステージに見立てて多彩なパフォーマンスを披露する「ロビー劇場」の企画・運営などをボランティア一つとっても、さまざまなかかわり方があります。職員の新川勝次さんは「ボランティアに興味がある人は、青少年センターに来もらえば、何か関心が持てるメニューがあると思います」と



サンタプロジェクト&ロビー劇場
ボランティアにはさまざまな形があります



ひろしまの会社の おもしろ Pレポート

REPORT

あなたの知らないところで、社会貢献活動を行っている広島の企業はたくさんあります。この「コーナー」では、そんな企業の取り組みをご紹介します。さて、今回はどうな企業が登場するのでしょうか？

(株)日本製鋼所広島製作所

祭りで地域を盛りあげるJSW

船越町商工会が毎年、8月第4土曜日に開催している「土曜夜市と産業祭」をご存知ですか？この市内有数の夏祭りに全面協力している日本製鋼所は、市民には何となく縁遠い産業用機械製造業ですが、それだけに一層地域に親しまれる存在を目指している会社です。その社会貢献活動のあれこれを取材しました。

土曜夜市と産業祭

Pレポートの“P”は、Philanthropy(フィランソロピー・企業などが地域活動に参加すること)、Peace(ピース・広島のアイデンティティーとしての平和)、Public(パブリック・公共に開かれている)などの“P”をイメージしています。

昨年の8月28日(土)夕方5時、「第21回土曜夜市と産業祭」が広島製作所グラウンドで盛大に開催されました。いつもは社内の野球やサッカー練習などに使用される照明灯付きグラウンドですが、この日ばかりは大きなステージが設置され、30張り以上の焼き鳥やお好み焼きなどのバザーテント、フリーマーケット、産業祭企業コートの日本酒などが所狭しと並びます。また子ども向けに「ふわふわドーム」が設けられたり、大人も乗れるミニSLも走ります。



折から台風16号が接近中でしたが、それでも近隣から5千人以上の家族連れが集まりました。ステージでは、広島市消防音楽隊の演奏に続いて子どもたちの元気なジャズダンス、神楽などが次々に演じられました。前年は二十周年ということで1万人が集まり、広島出身のB&B(漫才)や歌謡ショーが大人気でしたが、今回は広島人の大好きな神楽がメインイベント。

夕闇迫る7時過ぎに始まった曙神楽団(山県郡千代田町、2月から北広島町)の神楽は、カクテル光線の中で煙火が舞つたり、三匹の大蛇の激しい絡み合いもあって、来場者を約1時間釘付けにしました。そして最後は、お待ちかねの大抽選会。商工会等から提供された賞品の中から抽選会が行われます。

Information	
株式会社日本製鋼所広島製作所	所在地 広島市安芸区船越南
1-6-1	Tel 082-822-3181
代表者 石田俊一氏	(取締役広島製作所長)
資本金 約197億円	従業員数 約700人
設立 大正9年(1920年)	会社創業は明治40年(1907年)



県道の両サイドに立ち並び、安全運転を呼び掛ける社員の皆さん



取材に協力していただいた総務グループマネージャー
有田修氏(左)と、総務グループ係長松浦哲彦氏

れた賞品やANA賞など、産業祭全体で120本の抽選に沸きました。締めくくりは毎年来場者の期待を膨らませるJSW賞「東京ディズニーリゾートへの旅」ペア券(10万円相当)です。数字が読み上げられた途端、満面笑顔の男性がステージに駆け上がり、祭り実行委員長から目録を受け取って歓声に応えました。こうして午後9時、夜市は無事終了しました。

この夏祭りは、船越地区の活性化と住民交流のために昭和59年(1984年)に始まり、第10回までは船越小学校グラウンドで行われていました。しかし、セキュリティなどの問題から使えないなり、ほかの広い公共施設がなかつたこともあって、実行委員会メンバーだった同社に協力要請がなされたのです。同社の敷地は34万平方メートルですが、正門を入つてすぐ左側のグラウンド約7千平方メートルが平成6年(1994年)から会場になりました。それまでは高い塀と厳重な警備に守られた事業所でしたから当初は、会社と来場者双方に戸惑いがあつたそうです。しかし、単なる施設開放にとどまらず、水道や電気代負担、グラウンド横のトイレ新設、お年寄りや子供たちに配慮した巡回マイクロバス駐車場整備、それに何よりも大勢の社員の皆さんによる屋台や抽選会などへの裏方参加が、その戸惑いをすぐ

吹き飛ばしたようです。

今年は8月27日(土)の予定です。誰でも入場できますので、出掛けでみてはいかがですか？

春、夏、秋、年末に10日間行われる交通安全運動。車を5台以上保有する事業所は「安全運転管理協議会」に加盟することになりますが、同社は昭和42年(1967年)に海田安全管理運転協議会に加盟し、昭和62年(1987年)から総務部長が推されて会長職を引き受けており、広島市東部地区の交通安全運動に積極的に協力しています。

昨年の12月11日の午前7時30分から50分間、管理職を含む社員の皆さん約40人が正門前の県道両サイドに立ち、出勤してくる同社社員だけではなく、行き交う人々やドライバーにも交通事故防止を呼び掛けました。沿道にずらりと並ぶ黄色の幟やパステルグリーンのブルゾン、その胸につけた”年末交通事故防止原民総ぐるみ運動実施中の”二文字ゼッケンは非常に壯観で、遠くからでも目を引きます。これは地元警察と連携した活動ですがブルゾンやゼッケンを新調したり、一般ドライバーや歩行者にもかなりイバクトがあるようです。

年2回、会社周辺や駅からの通勤路をボランティア清掃しています

クリーンキャンペーン

平成15年(2003年)からボランティア清掃が始まりました。環境月間の6月と好天の多い10月の2日間、向洋駅及び海田市駅から会社までの通勤路(両方とも約1、2キロ)、会社を取り囲む道路(周約1キロ)をきれいにします。

昨年も10月に、家族を含む約50人の社員ボランティアが思い思いの格好で集まり、3班に分かれて2時間たらぶり汗をかきました。タバコの吸殻やビン缶だけでなく、破れ傘やホイールキャップ、台風で飛んだと思われるプラスチックの波板など、今回も実際に多くのゴミが散らかっていました。

3種類に分別したゴミは何と60袋、2トン車の荷台が満杯になるほどでした。

2トン車の荷台が満杯になるほどゴミが集まりました。